

令和4年度 第4回 スポーツ推進審議会
(議事録)

日時：令和5年2月28日(月)午後1時30分～午後3時00分

場所：西宮市立中央体育館 1階会議室

出席委員：会長・永田委員、林委員、角南委員、則包委員、中村委員、佐藤委員、野村委員

欠席委員：副会長・小坂委員、稲森委員、米倉委員、徳村委員

事務局出席者：天田文化スポーツ部長、坂本スポーツ推進課長、スポーツ推進課(係長：嶋作、主
事：野畑・西村)、株式会社サーベイリサーチセンター大阪事務所(担当者：萬関)

傍聴者：なし

<議事内容>

○【報告事項】(ア) 運動・スポーツに関するアンケート結果及び骨子案について

【事務局】

(資料に基づき説明)

[会長]

P26の「Ⅱ-10 西宮市のスポーツ関連施策」で「運動・スポーツを通じて地域での交流・活動がある」とまとめておられるが、聞き取りにくかったので、満足度と重要度の説明の補足をお願いしたい。

【事務局】

満足度と重要度に関して、それぞれ得点化している。且つ、西宮のスポーツ施策・全般的な満足度というところに重要度がどれ程関わってくるかという数値を出させて頂いた。偏差値の結果を、重要度を横軸、満足度を縦軸として、P26の右下の図に表したものである。図より、重要度は高いが満足はされていないという結果が読み取れる。これが課題であると認識した。

[会長]

それを詳しく聞きたかった。

【事務局】

この点を高めていかないと、重要だと感じているのに満足して頂けない。

[会長]

ここが一番重要であると感じた。見やすい資料であるが、その中で無関心であるのに面倒臭いと思いつながら運動をしているとはどういう事か。P44に「あまり興味が無いにも関わらず、比較的高頻度で運動・スポーツをしている層」とあり、平成29年度から令和4年度にかけて2%から

12.4%に増えている。この意味が分からない。

【事務局】

運動・スポーツに関心があるかという問いに対しては「全く関心がないからどちらともいえない」という回答であり、関心があるわけではないが、運動・スポーツをどれくらいしているかという問いに対しては「週1回以上運動をしている」と回答されている方になる。今回アンケートで検討された時に、運動・スポーツの定義をしっかりと定められたという経緯がある。そこで、全部ではないが、自分がしている事は運動・スポーツであり、週1回以上しているという認識で回答されたという可能性がある。そのような方は運動・スポーツに意欲的というわけではないが、週1回以上している方である。その方達がどのような人か調べたところ、属性としては、P46にあるように70歳以上の方や年金受給者の割合が多い。運動に関心を持っている方との違いという点では、関心を持っている方の概は自分の健康状態を健康だと認識している。一方で、関心がなく、運動を好きでしているわけでもなく週1回以上運動・スポーツをしている方は自身の健康状態を普通であるという認識で偏っており、週1回程度、健康維持目的で運動をされている方が多いと推測している。

P4にあるが、週1回以上運動をしている方は若い方の割合はあまり多くなく、週1回以上運動をしていなくても健康な方が多い。年齢が上がってくると、70歳以上は特にそうではなくなり、週1回以上運動をしているの方が健康であるという結果であるので、医師等に勧められて運動をしている可能性は大いにある。

〔会長〕

運動・スポーツの概念としての定義付けとして、1回につき30分以上の運動を実施するというのは一つの定義であるが、それを理解されてアンケートを実施する状況を作るにあたり苦労されたと察する。定義を理解された上でアンケートのこの結果が出たのだと考える。

指導面の問題が結果に多数挙がっている。中高、特に中体連について、地域スポーツとの関連性という面も出てきたと認識している。現在、移行期である事と、コロナ禍の影響が出てきている事が顕著に表れている。

健康という感覚も、コロナ禍で随分前回よりも下がっている事が事実かどうかは不明ではある。

指導者問題はやはり、ボランティアではなく、きちんと生活が出来る状態の経済力が保たれるような指導者のあり方が問われると考える。ボランティアの方はボランティアで報酬がないまま終わってしまうので、そうではない指導者の育成が必要である。

〔委員：スポーツ関係者（市民公募）〕

以前フォーラムを聴きに行った時に、神戸の方ではジュニアスポーツの育成を中学生を対象に実施しており、外国に連れて行って研修等をして育てているという話を聞いた。中学生・高校生・大学生等の早い段階から、ジュニアのリーダー育成をしていき、指導者候補を育てるという事は必要であると考えます。私は学童野球の監督をしていたが、現在36歳の元プロ野球選手に監督の役目を譲った。そのように我々も早い段階から次の指導者を見つけて譲っていく事が大切である。組織でサポートをどうやっていくかが課題である。

[会長]

委員自身の動きが見本となると思い、楽しみにしている。

[委員：スポーツ関係者（学識経験者）]

スポーツクラブ 21 の参加者の減少は課題である。結果的に次の目標はスポーツクラブ 21 の会員数の増加とあるが本当に出来るのか。組織やスポーツクラブ 21 の見直しが次の目標であり、必要と考える。

[会長]

その通りである。体制を変えていく為には、組織のトップを全体的に若返らせる事が大切である。あるいは西宮の場合、優秀な指導者がトップについてもらう状態を作り、プロの方達から指導をそこで上げるよう、バレーボール、バスケットボール、陸上、それぞれの分野に専門のプロがつく形にしていく。その為に、クラブ組織の強化を行っていく事が必要であると考えます。

スポーツ施設の利用について、現在体育館がワンコインで随時使えるような状態である事もあり、P40 では随分と活性化している事が示されている。しかし、一般開放について一部の人により寡占化されてしまっている状態であるという問題が挙げられている。リピーターが多い為になかなかスポーツ施設の中に入り込めないという問題が挙がっており、解消が必要になってくる。スポーツ施設の中に入って、運動が出来ると思ったら出来なかったという事にもなりかねない。せっかく自由に運動出来る環境を作っているにも関わらず、そこで不満が挙がってくるという状況はまずいので、監修をしないといけないと考える。皆さんの中にルールはあるようだが、いかがか。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

P32「スポーツクラブ 21・体育協会員加盟団体への調査」の「②必要な情報：S C21」のグラフを見ると、必要な情報として、「指導者育成に関する事」「スポーツ医療に関する事」が高い割合となっている。私自身がスポーツ医療に携わっているので興味が湧いたが、やはり学校管理下における中学校以降の怪我の割合の半分が部活動・スポーツ関連のものであると言われていた。西宮にも優秀なドクターやスポーツ医療施設もある事を知っている。そのような方達から何か発信をしたりする機会を作ろうと思ったら作れるのではないかと。ただ、何が出来るかという事を情報としてどこに発信するか、またそれを発信する機会が分からない為にアクションが起こせない。もっとスポーツ医療と現場を繋ぐ事について取り組めるのではないかと。

[会長]

今はどうであるか。どこか怪我をした時、どのような処置をすればよいか等、ネットで医療に関する情報は集めやすくなっているのではないかと。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

ホームページを見れば分かるのは分かるが、おそらくどのホームページを見ても、一般の方には似たように見えてどこがよいのかは分からない。整形外科のドクターでもスポーツ医療を専門にしている方とそうではない方もいらっしゃるし、スポーツ医療の中でも特定の部位が専門であ

ったりするので、例えば、二軒の整形外科がある場合、膝の専門だからこっちの方がよい等といった専門的なところまでは分からないのではないか。西宮におけるスポーツ医療機関を一覧等で見る事が出来るような情報発信が出来るだけでも、地域内で探しに行くよりは、西宮市のスポーツ整形はここ、それぞれ専門のドクターは誰か等、一覧で示していれば、それを見て自宅の近場で怪我の状態に適した整形外科に行ける。それほど難しくはないと思うので作成されてはどうか。

[会長]

委員の研究状態を見ればその医療機関や専門のドクター等は分かる事である。その点は整理出来ればよい。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

事前の予防は出来ないのかといつも考える。怪我をしてから病院に行くと結構重症な事が多い。トレーニング、メディカルチェック等が出来るような、ネットで見て事前の予防が出来るというドクターが必要ではないか。指導者の立場になると、怪我をしてしまってから半年間ボールが投げられない状態となるよりは、防げる方法は無かったのかといつも思う。それが我々の課題であると考えます。

[会長]

クラブあるいは部でやっているサポート体制の充実の話である。トレーナーがいてサポートしてもらい、怪我に至らないようなトレーニング方法が生まれる状態があれば一番よい。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

お金を掛ければトレーナーを呼べてしっかりしたクラブが出来るが、スポーツクラブ 21 の活動の中でどこまでそれが出来るのかという話である。例えば西宮市野球協会があるが、年に1回メディカルチェックを実施している。その時にレントゲンを撮り、ひじや肩の状態を診てくれる。ただ、年に1回であるので、もっと定期的に出来ればよいという意見である。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

地域によっては野球肘検診を実施している。西宮兵庫医大病院のスポーツ整形の医師とうまく連携をして、データは情報提供としてお渡しするので、研究を含めて野球肘健診を年2～3回実施していけば、興味を持ってくれる医師もいると考える。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

スポーツを通じて市と医師が連携出来れば、比較的安い金額で出来ると思う。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

個人的にやってみたい事として、西宮には、JTマーヴェラスや西宮ブルーインズ等のスポーツ団体があり、そこにはトレーナーやストレングスコーチもいらっしゃる。そのような方達とアスレチック・リエゾン・西宮にいるアスリートの方達で合同の指導者や保護者向けの講習会等を実施して、指導者育成をするような機会を設けられないか。バレーボール、バスケットボール、

サッカー等、それぞれにトレーナーがいて、阪神タイガースもそうであるが、様々な異なる分野のトレーナー達が子ども達向けにはどのような指導がよいという話をしてくれると、トレーナーが普段見ているのはトップアスリートであるが、持っている知識は子ども向けに提供出来るので、そのような形の指導者講習会、保護者向け講習会を実施すると指導者教育・育成にも繋がるのではないか。

[委員：スポーツ関係者（市民公募）]

この指導者育成は大変幅広い意味での育成であると感じた。ただ技術を教えるだけではなく、様々な意味でトレーニングの仕方等について、スポーツクラブ 21 という組織の中ではなかなか長けた人はいないという認識である。

[委員：スポーツ関係者（競技スポーツ）]

似た話になるが、指導者がつく事について、年代によって求められている事がおそらく違うと考える。例えばP33、求められているものは、子どもから親子、障がいのある人、全ての人で参加出来る事業や、子どもの居場所づくり等が結果に大きく表れており、トップアスリートの育成はそれほど求められていない。個々のニーズに応えるのであれば、指導者ではない人でも代わりに雰囲気づくりや、参加者の中でリーダーを決めるという事でも対応出来るのではないか。それほどこのスポーツ選手育成が求められていない一方、それではどの世代、層が求めているのか。P6の今後始めてみたいスポーツについても、専門的な指導を求めるようなスポーツはあまり結果に入っていないと感じた。気軽に一人で始められるスポーツが求められているので、そのような意味で、それほど専門的な指導を必要としているところがどこにあるのか疑問である。

[会長]

どう考えるかという話である。トップアスリートに焦点を当てていても、トップアスリートの育成を求める層の絶対人数は少ないのでこのような結果が出るのであろうと推察する。層を大きくすればするほど、トップアスリートになる可能性が高い子ども達が増えてくると考える。どうするかというと、やはりこの層が広がって大きくなっているところで、よい指導者に当たり、よい選手状態になっていって、トップになるという形を取らないと、絶対人数が少ない状態ではなかなか難しい問題である。

[委員：スポーツ関係者（競技スポーツ）]

本当は専門的な指導は小学生にはそれほど必要ない。小学生の場合、最低限の知識とポイント等を伝えられる場所があれば、指導者がいなくてもよいと考える。全ての現場に指導者を配置しなければならないという考えの中で、指導者が足りていないという意識になっているのではないかと推察する。中高生になりスポーツを絞った時に専門的な指導を受けられたら一番よい。地域の方で賄えるところでは今まで通り賄っていけたらよい。指導者が足りないというわりには指導者はどこにいるのか疑問である。

[会長]

スポーツ経験者達がトップに司令塔として立って動いてもらおうと全体的な流れが出来てくる。

一般のボランティアの人達が行っている状態よりも、より経験の高い練習内容も出来るし、どこかに計画性のある頭を持っていると思う。その点に関してどっちをどのようにすれば一番よいのかというのはまだまだ模索する必要があるが、指導者の育成という事も頭に入れながら、どのような体制を作っていたら一番よいのかというのは示さないといけない一つのラインである。西宮市としてもそこを押さえて考えていかないといけない部分であるとする。

[委員：スポーツ関係者（競技スポーツ）]

P44でA I DMAについての記載がある。Interest以降は書かれているが、最初のAttentionは書かれていないのは、どうなのか。結局入り口が多くないといけない。トランスフォーメーションを使って競技をどこでも観る事が出来るようにされるのか、またそこに指導を使っていくのかは別の話になるが、入り口が重要であるとする。

[会長]

無関心の人は無関心のままでよいのか。

【事務局】

最初からトップアスリートという金の卵を探しに行くよりは、パイが広い中でまずは関心をもってもらって、スポーツをしてもらうのが一番大切である。その人口を増やして、その中からトップアスリートに憧れをもって一生懸命スポーツをして、自分を磨いてというような流れでトップアスリートを育てていく。最初に色々な方面から入り口を作って、その多くの中からさらに広げていく事が大事であり、トップアスリートの育成というのはその後の話である。そこでスポーツに関心がある、ないというところも段々広がってくるような考え方になると考える。

[会長]

最終的にどうであるか。骨子案をこの状態で承認するのかを委員会の中で諮ろうという事か。

【事務局】

今回は報告事項で、骨子案はP71以降の右上にあるように現段階で案の状態である。骨子案の次に、来年度以降は素案という形で具体的な内容を詰めていく予定である。今回であればP70以降が骨子案で、今回はアンケートをさせて頂いた結果を受けてこのような骨子案が出来たという報告である。もちろん諮る必要があるのであれば諮って頂きたい。これで骨子案とさせて頂いて来年度は素案の中で今お話し頂いたような具体的な内容を記載する。例えば、スポーツ実施率をどのように上げていくか、何を軸に置いて今後10年、西宮市としてスポーツ推進施策にどのように取り組むのかという事を素案で示す予定である。今は生涯スポーツというのをメインに考えているので、そこをどのように広げて計画に落とし込んで、最終的に今後10年の計画を作って頂きたいというのが骨子案のP70である。

[委員：スポーツ関係者（学識経験者）]

指導者の話で言うと、当然であると思うが、専門的な指導を求めている子ども達もいるはずである。西宮スポーツセンター主催の走り方教室を陸上部に連れてきて実施させて頂いている。陸

上を頑張りたいという子ども達だけではなくて、野球をしていて野球をする上で足が速くなりたい方や、サッカーで足が速くなって活躍したいから専門的な指導を求めてきたという方もいらっしゃる。正直一時間や一時間半では動きは変わらないが、自宅に持ち帰って出来るようなトレーニングを優先的に教えてあげて、これを自宅に帰ってからもやってほしいという、お土産として持って帰るようなプログラムで満足してもらえているのかと考える一方で、やはり専門的ではなくスポーツの楽しみや、友達が沢山出来るという、スポーツの力を教えてあげるような取り組みや指導者も必要であり、当然であると考え。

私が気になったのは、P 8の「②運動・スポーツを一緒にする人【問7】」のグラフで、「1人」で実施する方は67.0%と7割近くいらっしゃる。次のP 9の「②運動・スポーツをする場所」のグラフでは「自宅（室内、庭など）」「緑地公園、海浜公園、河川敷、道路」の割合が高い。一人でスポーツをしている方が多いから場所もそのようなところの割合が高くなるのかと推察する。P 7の今後始めてみたいスポーツのヨガや筋トレ等についても、YouTube等でも方法は発信されているので一人でも出来る。登山やハイキング等は複数かもしれないが、最近はソロキャンプのようなものも流行っているし、だからスポーツ実施頻度やスポーツをする人を増やそうと考えると、一人で実施する人にターゲットを絞っていくのも一つであると思うが、そうするとスポーツ施設を使う人が逆に減ってきたり、運動をして健康ではあるが、全然交流はしていなかったり、イヤホンを着けて走っていたり等という状況になってしまうのもどうかと思う。一人をパイとしながらも複数で施設を使って皆で楽しみ、交流をしながら心の健康も高めてもらうような取り組みとの両輪が必要であると考え。

〔会長〕

おそらく、コロナ禍で施設が全て閉鎖されている状態もあった。そこからまだ脱皮出来ていないという事はこの数字を見て感じた。それは徐々に改善をしていきながら、コミュニケーションが取れるようなスポーツのあり方を展開して頂きたい。

〔委員：スポーツ関係者（市民公募）〕

先ほどおっしゃったようにYouTubeで出来るスポーツも増えている。例えばボードやダンスといったニュースポーツ、野球もベースボールファイブというものが取り入れたいと思っているが、これは五人で手打ちで行うというもので国際競技にもなろうとしている。そのような新しいスポーツをどんどん取り入れていく事でそれに競技する、参加出来る人が増えていくのではないかと。金メダルを獲得した方もYouTubeで独自にトレーニングをしたという話を聞き、そのような時代なのだと感じた。

〔委員：スポーツ関係者（学校体育）〕

指導者不足の話が挙がり、どこにポイントを置くかという問題もあるが、色々な中学校の部活動をしている子ども達を幅広く見ながら、その中で抜きん出ている子どもをそれぞれの専門的な所に預けたりしてはどうか。例えば、サッカーでわかりやすく言うと、チームヴィッセル神戸に所属する子どもであっても、関西トレセン所属となり、関西地区の代表を寄せ集めて、それがナショナルトレセンになる。中学校でも、例えば部活動で上手な子が西宮で選ばれて、西宮で上手であれば阪神で、阪神で上手であれば県で、今度は関西トレセン、それからナショナルトレセン

となる。それらが全て連携して光っている子どもを引き上げていくシステムは完成されていると思う。しかし、それ以外の子ども達をどのように育てていくかという問題がある。運動機会の確保に繋がるという点については部活動が担うところが大きかったが、それこそ指導者不足の点で言えば先生も生徒も数が減り、部活動の数も減って、部活動自体が成り立たない地域もある。例えば、中学校の部活動で剣道をしたい生徒がいるが剣道部を作れない、という状況である。スポーツ庁の言う、広く運動機会を確保するという事の必要性は、時代が変わり少子化となっている状況で重要であると考え。それをいかにこれから先取り組んでいくかという、学校には立ち行かない、要は卓球をしたいのに卓球を教えてあげられない、また授業をするにしても毎日卓球したいのに、希望するスポーツをしたいのにという子ども達をどのように救っていくかという、プロのスポーツチームにお願いをする、時々大学の先生を訪ねて一緒に入れてもらってはどうか等、学校では解決できなくなっている部分については地域に学校が上手に手渡しをするような形で進めていくのがよい。

これから先の指導者不足の解消にはならないが、子ども達の運動機会の確保を上手にスムーズに移していかないといけないと考える。昔の仲間が、自分の受け持っている中学校の部活動のサッカーチームが強くてくましいと言っていた時期があったが、弱くなり、子ども達が上手ではなくなり勝てなくなった時に、山遊び、川遊びをしなくなった事が原因だと言った。小さい頃から色々な経験をさせる事が必要である。

わざわざ山や川に連れて行くのではなく、それに代わるものを今度は取り組んでいかないといけないと考える。それを指導としてどのように取り組むのかが課題である。例えば、地元地域でダンスのサークルを市立の体育館を借りて、幼稚園の子どもから中年女性まで、様々な地域の人達をカテゴリに分けて、ダンスの種類も分けてダンス教室をやっている中で、コロナの影響で一気に市立の体育館を貸すことができない状況となったり、1競技団体が複数の登録から独占利用したりするような問題もある。スポーツを通して地域で子どもを育てるようなクラブが一部の常連により借りたくても借りられず活動できないような環境である。最終的には高い利用料金を払って、民間の場所を借りて、そこでようやくコロナ禍でもなんとか継続出来るようになった話もある。市が悪い、施設のやり方が悪い等ではなく、いかに裾野を広く地域の指導者に場所が提供できるか。やはりP34の右の図、「③学校部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携での課題：SC21」を見ると、まさに課題として一番に「指導者の確保」が81.3%、次が資金、そして物、場所である。やはり人・金・物・場所が保障されなければいけないのではないかと。128億と言っていてスポーツ庁は28億しか取れず、19億補正した47億で47都道府県に1億ずつしかなくて、土日だけ地域に任せるとなった時に兵庫県の中のある市が試算すると、単純試算で一市につき2000万円程必要である事がわかった。だから1県につき1億では五つの市で終わってしまう。お金の問題もあって出来ない。その点で人も物もお金も大事であると痛感している。

〔会長〕

人、物、金。人が動こうとしたり、動く事によって、お金がいる、物がいるというように繋がっていくので、この点は切り離さないで繋ぎを付けていきながらますます子どもがスポーツを実施出来る状況・環境を作っていかなければならないと考える。

今回のスポーツ推進審議会は、このような話として進めてよろしいか。

【事務局】

アンケートを受けて、P70の骨子案で、来年度の基本計画の策定にあたって取り組みを進めていく事を示している。P71以降は、現在、このように考えているという事務局案である。素案を来年度作らせて頂き、審議会に提出し、見て頂きたい。来年度以降も引き続き取り組んでいきたいと考えている次第である。

[会長]

他の委員から意見はないか。この後、もしよい案を思いつかれたらスポーツ推進委員会に寄せて頂きたい。進行を事務局にお返りする。

【事務局】

骨子案をもとに素案を作成する予定である。骨子案自体が違う方向性であればそもそもの素案もそのようになってしまうので、意見があれば寄せて頂き、修正をしながら来年度の素案を作成し、皆さんの意見を頂きながら計画自体を進めていきたい。推進計画については今後審議会で意見を頂戴した上で、来年度末までに作成する事になっている。

次回、来年度4月以降の6月頃の開催を予定している。事前に日程調整をさせて頂く。

以上